

個票 15 特定外来生物ナガエツルノゲイトウ駆除・防除活動

〔池 4(1)①5-1、池 4(1)②1-2〕

(2021年作成)

配慮の視点	外来生物への対策	配慮項目	(1) 侵略的外来生物の排除・抑制
配慮事項	①侵略的外来生物の侵入・拡散防止、②侵略的外来生物の駆除		
配慮事例	モニタリングで確認された侵略的外来生物の拡散防止 モニタリングで確認された侵略的外来生物の駆除		

内容	<p>●特定外来生物の駆除・防除活動</p> <p>【解説】</p> <p>2018年11月稲美町天満大池で発見されたナガエツルノゲイトウ(水草)は、特定外来生物に指定されており、水域だけでなく、陸域でも生息でき、塩分にも強く、繁殖力が非常に強い侵略的植物である。調査を実施し即座に駆除を始めたが稲美町だけでなく下流の加古川市や播磨町へ拡がりを見せている。その後も神戸市などのため池でも発見され、本土だけでなく、淡路島(洲本市)にも渡り、ため池及び周辺農地へ確認されたことから、農業被害が懸念されている。</p> <p>一旦侵入すると、瞬く間に増え、数日でマット状に拡がり、水面や農地を埋め尽くす。そのため、自然生態系の崩壊、防災の観点からも、ため池洪水吐きをせき止め決壊の危険性や、農業用のパイプラインを詰まらせることや、農家物の収量減、品質低下などが懸念されることから、早期の駆除・防除が必要である。</p> <p>【具体的な工法・配慮事項】</p> <p>●普及啓発活動の実施</p>
----	---



特定外来生物の対策としては、「入れない、捨てない、拡げない」の3つのキーワードをしっかりと地域住民や関係者に伝え、理解を深めてもらうことが重要であり、チラシの配布や研修会の開催、駆除活動の実践などが望ましい。

●駆除・防除活動を行う体制づくり

地域の関係者による相互理解を図り、組織体制を構築した上で、地域と行政、専門家等との連携による情報共有や意見交換を行いながら、持続可能で効率的な駆除・防除の実施が望まれる。

●駆除・防除方法

【人力掘削】

水域及び陸域でしっかりと駆除する方法は、手作業で根（約100～50cm程度）をしっかりと掘り起こし、茎の破片からも根付くことから、茎から根までの全てを袋詰めにして飛散ないように回収し、乾燥後、焼却等の処分を行う。



写真1 手作業による駆除

【遮光シートによる被覆】

陸上部の場合、繁殖範囲を100%の遮光シートで覆い、光合成できない空間をつくる。夏場は、シート下部が高温となり、腐らせる効果もある。数年間様子を確認し、完全壊死した段階で駆除を終える。シートの材料費や覆う作業の手間はあるが、定期的な駆除が不要となるため、現時点で最も効率的な工法と言える。



写真2 遮光シートによる

【拡散を防除】

ため池から下流の水路や農地へ拡がらないように、ため池の取水施設にネットを張る、洪水吐きから下流に流れ出ないようにネットを張る、水田の取水口にザルやネットを張るなどの予防対策を講じる。



写真3 農地への流入防止ネット



写真4 ため池からの流出防止ネット

●継続的なモニタリングと防除計画策定

一旦駆除が完了しても、継続的に芽が出てくることが想定されるため、定期的なモニタリング調査や地域全体の防除計画を策定し、計画的な駆除、効果的な防除対策を実施することが望ましい。

【事例】

東播磨地域では、「いなみ野ため池ミュージアム運営協議会」が中心となり、農家、行政、専門家（兵庫・水辺ネットワーク、エコロジー研究所）を交えた連絡会を2ヶ月に1回開催し、情報共有や方向性の検討、地区ごとに役割分担を定め、手作業による駆除や遮光シートによる被覆、取水施設から農地への侵入を防ぐネット張りなどの駆除・防除活動を実施している。2018年以降の早期かつ継続的な取り組みにより、農地への侵入やエリア拡大を抑制し、繁殖を概ね制御できているため池もあるが、現時点では完全駆除に至っていない。



留 ① 普及啓発（相談・確認）

<p>意 点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・誤って拡散させてしまうことがあるため、周辺住民に特定外来生物であることや拡散防止の注意点について普及啓発をしっかりと行う ・特定外来生物の生息が確認、可能性がある場合は、早期に専門家へ相談・確認してもらう <p>② 工事時の注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事前の環境調査結果をしっかりと確認した上で工事を行う ・工事中の土砂運搬、重機の搬入等に注意が必要（建設業者へのPR） ・出入りをする全ての工事作業員に拡散防止を徹底する <p>③ 駆除・防除</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初動対応が重要であるため、早期の駆除・防除に努める ・行政の横連携、地域の協力体制の構築が必要 <p>④ 持続可能な取り組みとする工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最低限度の目標共有（農地への侵入防止など） ・駆除後の定期的なモニタリング調査（しばらくすると芽が出てくる可能性があるため地域住民の参画のもと継続的な監視を行う）
<p>参考資料</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. いなみ野ため池ミュージアムHPよりチラシ https://www.inamino-tameike-museum.com/pond-museum/nagae.html 2. 農研機構HPよりリーフレット https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/139232.html